

第2回 協働のまちづくり推進委員会 結果概要

1. 開催日時・場所

平成27年4月23日（木）18時30分から20時10分
商工会館6階 商工会館会議室B

2. 出席者

委員：北向秀幸委員長、佐藤博幸副委員長、浮木隆委員、五戸保夫委員、
齊藤綾美委員、田頭順子委員

※欠席：江刺家一弘委員

事務局：市民連携推進課（3名）

3. 会議概要

■平成26年度事業の評価について

- ・平成26年度に実施された市民奨励金制度にかかる事業6件及び市民提案制度にかかる事業1件の評価について、意見交換を実施。

4. 今後のスケジュールについて

■今後のスケジュール（予定）

- ・5月17日（日）
平成26年度実施事業 協働のまちづくり「活動成果発表会」開催
- ・7月8日（水）
平成27年度「元気な八戸づくり」市民奨励金（災害に強い地域づくり応援コース）交付対象事業の審査

第2回 八戸市協働のまちづくり推進委員会 議事録

日 時 平成27年4月23日(木) 18時30分から20時10分
場 所 商工会館6階 商工会館会議室B

次第1. 開 会

次第2. 委員長あいさつ

次第3. 平成26年度事業の評価について（市民奨励金制度6件、市民提案制度1件）

- ・平成26年度事業に対する各委員の評価内容をまとめた資料に基づき、事務局より評価ポイントを絞って説明。
- ・市民奨励金制度にかかる事業（6件）と市民提案制度にかかる事業（1件）の評価について、意見交換を実施。
- ・総評案は委員の意見を元に事務局でとりまとめ、後日確認することとした。

□初動期支援コース①

笑ってキラキラサークル / エリート高齢者育成事業

■事務局

- ・評価される点としては、年齢を重ねても地域に貢献しながら、自分たちのモチベーションを高めてがんばっていこうという力強い意欲が感じられること。また、地域に根ざした活動を前向きに楽しみながら行い、活動量を増やしているという事業の自発性・取組姿勢に関する意見が多くあげられたほか、事業の継続性、有効性に関する意見があげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、活動を地域の人にアピールし、ひとりでも多く活動に賛同してくれる会員を増やして活動を継続して欲しいという今後の活動に対する期待のほか、今後も活動を継続するための奨励金以外の財源の確保が課題としてあげられた。

■委員長

- ・先日のヒアリング審査会において活動状況を伺っておりましたが、笑ってキラキラサークルの「エリート高齢者育成事業」について、ご質問やご意見はありませんか。
- ・その他の意見については、イベントへ足を運ぶヤングママの参加者が増えたが、それにより得られた効果に関する記載が報告書にはなかったもので、補足説明をしていただきたいという趣旨のご意見かと思えます。
- ・この点につきましては、ヒアリング審査会においても伺っておりませんでしたので、発表の中に盛り込んでいただきますか。

■委員

- ・ヤングママさんの感想なども発表してもらえればいいのかと思います。

■委員

- ・その他の意見については私が出したものです。
事業計画書の事業目的に記載があったので、どうなったか少し気になったところでした。
得られた効果があれば、少しお話を伺いたいと思いました。

■委員長

- ・この辺は発表の中に入れていただけたほうがいいでしょうね。
- ・ヤングママさんにイベントに参加していただいたという報告があるので、今後、団体としてヤングママさんとの交流をどう活かしていきますか、どのようにネットワークをつくっていきますかというところでしょうか。
- ・ほかにご意見等がなければ、進めてまいりたいと思います。
- ・次に、すまもり中世の田んぼクラブの「中世の田んぼ跡活用による島守の活性化事業」について、事務局より説明をお願いします。

□初動期支援コース②

すまもり中世の田んぼクラブ / 中世の田んぼ跡活用による島守の活性化事業

■事務局

- ・評価される点としては、地元・地域外の住民が交流しながら米づくりを行うとともに、既存の地域団体と連携し、会自体の当初の目的を達することができるという事業の有効性に関する意見が多くあげられたほか、事業の独創性、活動の計画性・進行管理に関する意見があげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、地域特性を活かした事業で地域住民以外も参加していることから、活動の広がりが期待できるという今後の活動に対する期待のほか、米づくり体験にとどまらず、「中世の田んぼ」の歴史的価値をアピールできると良いという今後の活動に対するアドバイス等があげられた。
- ・また、質問事項として、活動に関わっているメンバーの島守地区の住民と地区外の住民との比率を伺いたいという意見があげられた。

■委員長

- ・すまもり中世の田んぼクラブの「中世の田んぼ跡活用による島守の活性化事業」につきましても、先日のヒアリング審査会でお話を伺っておりまして、審査のときにも資料に掲載されている内容と同じような趣旨の質問がされていました。
- ・意見・アドバイスの中で質問事項が1つ出ていますが、ヒアリング審査会で質問されていたように思います。

■事務局

- ・同様の質問が出されていました。

■委員長

- ・それでは、回答いただいている質問なので、省略することにしましょう。
- ・その他に記載されている内容は、今後の活動に対するアドバイスといった内容だと思っているのですが、皆さんはどのように感じていらっしゃるでしょうか。
- ・日本に3つしかない中世の田んぼ跡という価値を今後どのように発信して、どのような

付加価値をつけて育てていくのか。それとも、サークルとして米をつくるという活動を継続するにとどめるのか。今後どのような方向で活動を進めていくのかという趣旨の質問だと思っていましたが、この点についてもヒアリング審査会においてお話を伺っていましたね。

- ・やはり、先日お話を聞いているので特に質問等はないかと思えます。
それでは、すまもり中世の田んぼクラブに関しては質問なしということで、次の団体に進めてまいりたいと思えます。
- ・次からはまちづくり支援コースに入ります。八戸歴史研究会の「八戸藩城下絵図の復元と復元絵図の刊行」について、事務局より説明をお願いします。

□まちづくり支援コース①

八戸歴史研究会 / 八戸藩城下絵図の復元と復元絵図の刊行

■事務局

- ・評価される点としては、当初の目的のとおり、八戸市の歴史資料を一般の市民が手に取ることができるよう復元絵図を刊行したこと。また、まち歩きをする際に必ず必要となる資料を刊行できたという地域社会への貢献性に関する意見が多くあげられたほか、活動の計画性・進行管理に関する意見があげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、復元した絵図を活用し、はっちと連携した情報発信やまち歩きへの活用、講座の開催など、今後の活動に期待する意見・アドバイスがあげられた。

■委員長

- ・では、八戸歴史研究会の「八戸藩城下絵図の復元と復元絵図の刊行」について、ご質問やご意見はありませんか。
- ・アドバイスとして、委員の皆さんからは「講座を開いてもいいのではないか」、「PR方法を検討していただきたい」という内容が出されておりますので、提案に対してどのように考えているか回答していただくことにしますか。

■委員

- ・刊行された復元絵図はありますか。

(刊行された復元絵図を委員の間で供覧)

■委員

- ・ボランティアガイドの皆さんに持たせたいですね。

■委員

- ・200部のうち50部は書店販売とありますが、販売価格はどれくらいですか。

■事務局

- ・3,000円弱です。
- ・販売分を除く150部の復元絵図は小中学校や図書館、公民館等に寄付されており、市民の皆さんの手にとってもらえるような形になっております。

■委員

- ・刊行された後の反響はどのようなのでしょうか。

■委員

- ・ごく限られた場所にしか配っていないので、反響を得られるというところまでいかないのではないのでしょうか。大変おもしろい出版物だとは思いますが。
- ・まちなかを案内するボランティアガイドはどれくらいいるのですか。

■事務局

- ・まちなかであれば、市民ガイド八戸協会とまちなか観光応援隊の2団体ぐらいになります。

■委員長

- ・中心街のまち歩きはまちづくり活動の一環としてやったことがあります。
このような本は基礎資料になりますが、見る側によって使用目的が違いますので、どんなことに使われるかも変わってくると思います。まち歩きのガイドさんと、まちづくりを考えている人とは使い方も変わってくるということです。
- ・私がこのような過去の資料を使う場合、現在のまちが持っている意味を理解した上で、次のまちづくりにどう活かしていくかという発想で使います。
- ・期待される効果に記載されているまち歩きへの活用となると、私のような活動をしている人とどうやってつながっていくかということになっていきますね。
- ・意見・アドバイスに書かれていることを発表の中に取り入れてくださいとお願いしようと思っていますが。

■委員

- ・実現するための働きかけということをどう考えるかということになってきますが。
- ・私は、八戸歴史研究会は刊行というところまでをする団体で、その後講座を開催するなどということは考えていない団体かと思っています。刊行した本を活用することができる団体とどう結びつくかということだと思っています。八戸歴史研究会に、期待される効果が実現するような活動や働きかけまで求めていいものなのかと思っています。実際、八戸歴史研究会が講座を開くわけではないんですね。

■委員長

- ・会長さん自身は、いろんなところで講演されていますね。

■委員

- ・今回刊行した絵図を活かした活動をしていこうと考えているのか。刊行したことを一区切りにして、次のものをつくろうと考えているのか。どのように考えているかは確認する必要があるのかと思います。

■委員

- ・市内の公民館の歴史講座などでは会長さんが講師をされる機会も多く、当公民館でも2年おきにお話いただいています。そのような機会で、今回刊行された復元絵図が資料として用いられることもあるかもしれません。

■委員

- ・そのような状況であれば「今後このようなことを考えています」ということを話してもらえればいいのかと思います。

■委員

- ・歴史講座の講師としては、市内では会長さんに声がかかることが一番多いのではないかと思います。

■委員長

- ・会長さんは歴史講座の講師も務められている方なので、刊行した内容を自身の活動にどのように活かしていくかということをお伺いしたいということではないのでしょうか。
- ・せっかく刊行したものですので、どのように活かしていくことをお考えでしょうかとい

うことです。

- ・会長さん自身が動いてもいいですし、他の方に活用していただいてもいいですし、どのように考えておられるかを発表していただくということではいかがでしょうか。

■委員

- ・いいと思います。

■委員長

- ・よろしければ、次に進みたいと思います。
- ・それでは、八戸三社大祭歴史等を研修する会 風流会の「八戸三社大祭山車・大正時代の山車再現事業」について、事務局より説明をお願いします。

□まちづくり支援コース②

八戸三社大祭歴史等を研修する会 風流会 / 八戸三社大祭山車・大正時代の山車再現事業

■事務局

- ・評価される点としては、当時の製法に可能な限り忠実に取り組み、大正時代の山車を再現したという事業の先駆性に関する意見や、大正時代の山車の再現により八戸三社大祭の歴史を周知することができ、PRにつながったという地域社会への貢献性に関する意見が多くあげられた。そのほか、奨励金のみに依存しない団体の自立性に関する意見があげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、再現した山車を活用した三社大祭のPRや歴史的資料としての活用など、今後の活動を期待する意見・アドバイス等があげられた。

■委員長

- ・では、八戸三社大祭歴史等を研修する会 風流会の「八戸三社大祭山車・大正時代の山車再現事業」について、ご質問やご意見はありませんか。
- ・質問が結構出されていますので、ぜひ答えていただきたいと思います。
- ・今、山車はどこにあるのですか。

■事務局

- ・南類家に山車小屋を建てて制作しておりました。まだ山車小屋はあるはずですが。
- ・風流会の会長から活動中にお話があったことですが、新聞紙面上で報道されていたこともあり、「イベント等で展示して欲しい」という要望を受けたそうで、できる限り皆さんに見ていただけるようにして貢献していきたいと考えているというお話をされていました。

■委員長

- ・今後の活動については、歴史的資料として残していただきたいという意見や、三社大祭以外の時期でもPRすることができる機会を検討していただきたいという意見が出ておりますので、活動成果発表会の際には団体の今後の活動に対する考え方をPRしていただいてもいいと思います。
- ・今後の課題の協賛金に関する意見は、今後の活動資金をどうしていくかということですかね。

■委員

- ・これからも昔の山車を再現していくのか、今回制作した山車を歴史的資料として残していくということで終わりなのかによって、今後の活動に要する資金が変わってくると思

うのですが。

- ・今回制作した山車を活用して今後の活動を展開していくのか。もしくは、新たな山車を制作するのか。団体として、どのように考えているかをお伺いできればと思います。

■委員

- ・会長の山車組で面倒を見るのかなと思っていました。

■委員長

- ・今後の活動の方向性については、是非PRしていただければと思います。
- ・今後の方向性の話になるので、協賛金だけで活動していけるかどうかということは、今後展開したいと考える活動の内容を聞いてからの話になってくると思います。お話を聞いた上で、「協賛金が必要となった場合にはどうされますか」という質問をさせていただくことになるかもしれません。
- ・あとは具体的な質問事項が出されていて、提供された資料は公開されたかということに関しては、委員からこういった質問が出ているということをお伝えいただければと思います。どんな資料が提供されたかということをご回答いただければいいかと思います。
- ・まちづくり支援コースに関しては、今回取り組んだ事業を今後どのように活かしていくかということを確認して、応援していきたいという気持ちがありますので、是非発表に入れていただきたいと思います。
- ・ほかになければ、次に進みたいと思います。
- ・NPO法人はちのへ未来ネットの「子育て支援で花咲かせ大作戦」について、事務局より説明をお願いします。

□まちづくり支援コース③

NPO法人はちのへ未来ネット / 子育て支援で花咲かせ大作戦

■事務局

- ・評価される点としては、数多くの事業をほぼ計画どおり実行し、多くの参加者を得て実施できたこと。また、事業ごとに自己評価が行われ、今後の活動に結び付けようとする意欲を感じられたという活動の計画性・進行管理に関する意見のほか、事業への取組姿勢、今後の発展性に関する意見があげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、実施イベントの継続や親同士の活発な情報交換の創出、中心街以外での活動、子育てサロンとの連携の深化といった今後の活動を期待する意見・アドバイスがあげられた。

■委員長

- ・では、NPO法人はちのへ未来ネットの「子育て支援で花咲かせ大作戦」について、ご質問やご意見はありませんか。

■委員

- ・昨年のヒアリング審査の際に、南郷だけネットワークが構築されていないというお話をされていまして、今回の事業を通じてネットワークを構築することができたのかという点はお伺いしたいと思います。

■委員長

- ・質問事項ということでお知らせください。
- ・アドバイスに関しては、当日の質問としてお伝えするという方がいいですかね。

■委員

・アドバイスを質問として置き換えて、発表の中でお話いただいたほうがいいと思います。

■委員長

- ・それでは質問として出したいと思います。団体の考え方をお聞かせいただきたいというところですね。
- ・あとは、発表の中でお話いただけるとはいますが、はちのへ未来ネットがネットワークをどのように構築していったかということを発表の中で紹介していただきたいですね。
- ・代表の方はよく知っていますが、なかなかこのような方はいらっしゃいませんよね。ですから、ネットワークを構築するためにはどのようなコツがあるのか、どのように広げているのか聞いてみたいですね。個人の資質なのかもしれませんが。
- ・では、次の事業にまいります。美保野小学校地域学校連携協議会の「美保野・金吹沢地区里山づくり」について、事務局より説明をお願いします。

□まちづくり支援コース④

美保野小学校地域学校連携協議会 / 美保野・金吹沢地区里山づくり

■事務局

- ・評価される点としては、これまでの継続した活動によって地域住民及び諸団体がうまく交流できていること。また、地域住民だけを対象とせず、広く市民が訪れることができる里山づくりが行われ、地域の活性化・課題解決に取り組まれているという地域社会への貢献性に関する意見が多くあげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、より一層地域住民以外の市民が訪れることができる環境整備や情報発信、イベントの工夫といった今後の活動を期待する意見・アドバイスがあげられた。

■委員長

- ・では、美保野小学校地域学校連携協議会の「美保野・金吹沢地区里山づくり」について、ご質問やご意見はありませんか。
- ・アドバイスとしては、
 - 活動している内容を地域内だけではなく、ほかの地域等に発信し、存在をアピールしてもよいのではないかと。
 - 地域以外の住民がより参加しやすいようイベント内容を工夫してはどうか。という意見が出されております。これらについては、このまま質問にさせていただこうかなと思いますので、回答の準備をお願いしたいと思います。
- ・今後の期待としては、
 - 可能な範囲で、美保野以外の市民が訪れることができるような環境を整備していただきたい。という意見が出されておりますが、こちら質問になりそうな内容となっておりますので、回答の準備をお願いしたいと思います。
- ・このほかに聞いてみたい内容などはございますか。

■委員

- ・実際に視察の受け入れが増えたときに、上手く対応できるのかなというところがあります。アピールするのはいいのですが、視察の件数が増えすぎると困るのかなと思います。その辺を団体としてはどのように考えているのか。

- ・地域以外の住民が参加しやすいようなイベントに変えていくということもそうなのですが、そうすると団体が大変になってくるのかなと思います。その辺を団体としてはどのように考えているのかなど。
- ・あくまで地域内をメインでやりたいと思っているのか、広げていきたいと思っているのか。どのように考えているかによって、アドバイスできる内容も変わってくるのかと思います。

■委員長

- ・団体の今後の方向性をお聞きしたいということですね。
- ・質問が4つほど出ましたので、当日の準備をお願いしたいと思います。

□初動期支援コース及びまちづくり支援コースの総評の検討

■委員長

- ・ここで総評案ですので、当日皆さんから一言ずついただくのですが、その前に奨励金全体を通じて皆さんのご感想を聞いておきたいと思います。それをもって当日の総評につなげていきたいと思います。
- ・例年、初動期支援コースとまちづくり支援コースで、出てくる意見の方向性は一緒になっています。
- ・初動期支援コースにつきましては、団体の継続と今後の方向性について確認をしたいということが必ず出てくる意見となっております。「がんばりすぎるとメンバーが疲れるときがある」と笑ってキラキラサークルの評価のところで書いてありますが、総評のときには初動期支援コースを十分に活用していただいているというお話をさせていただくことが多いです。
- ・委員の皆さんがそのような方向で感じられているか、それとも今回の2団体に関しては違う感想をお持ちになっているが、お聞かせいただきたいと思います。
- ・今回の初動期支援コースの2団体については、活動内容が全然違うので少し総評がつくりにくいところがありますね。
- ・初動期支援コースの2団体に対するアドバイスとしては、今の活動に対してアドバイスや要望が色々出ていますが、必ず取り組んで欲しいということではなく、今後このような方向の取組が求められてくるであろうという意見が委員の皆さんから出ていますということです。

■委員

- ・初動期支援コースの2団体については、どちらも楽しみながら活動しているという印象を受けます。「こうしなければいけない。ああしなければいけない。」というような義務感とは違って、非常に楽しみながら活動しているところがいいのかなという感じを受けます。全然活動している内容が違うんですがね。

■委員長

- ・笑ってキラキラサークル、すまもり中世の田んぼクラブのどちらも、非常に期待感を持てる活動をされていると感じています。地域の価値や地域の資産をみつけるという意味では、どちらの団体に対しても期待感のある活動をされているという感想を持っていますので、非常によく活動されていると思います。
- ・その上で、今後のアドバイスとして「こんなことが出ています」というようにまとめたと思います。

- ・まちづくり支援コースについてですが、団体のメンバーが活動を楽しんでいるということだけではなくて、今回の活動実績を次にどう活かしていくかということが必ず求められます。
- ・ですから、城下絵図の復元にしても、大正時代の山車の再現にしても、これで終わりということではなくて、活動によってできた資産を今後活かしていただく方向で考えていただくようにしていただきたいという感想になります。美保野についても地域の資産をつくっているということで同様ですね。
- ・はちのへ未来ネットについては少し違うんですが、ネットワークも資産になるかと思えます。構築したネットワークを来年、再来年と今後もっと活かしていただきたいということになります。
- ・まちづくり支援コースに関しては継続というよりも、1回大きく活動するというのが色濃く出るので、できた資産を次に活かしていただくための案を是非考えていただきたいということを感じておりますというまとめになるかと思えます。
- ・まちづくり支援コースは、活動を通じてできた有形・無形の資産を是非活かしていただいて、来年度以降の活動を期待しておりますというところです。
- ・奨励金全体を見れば、初動期支援コースの団体もまちづくり支援コースの団体も、非常によく活動されているという感想です。それぞれの団体に資産ができていているという点ですね。
- ・これが単純にイベントを開催しただけだと、このような感想を持たずに終わってしまいます。「イベントをやりましたね」という感想だけなんです。ですが、今回はそれぞれの団体が活動を通じて、何か資産を残されたという感覚があります。是非その資産を活かしていただきたいという期待を持っております。

■事務局

- ・それでは、委員会の開催に際して事前にいただいていた意見や本日の委員会で事業ごとに出た意見、最後に委員長にまとめていただいた内容をまとめて、総評案をつくりたいと思います。

★初動期支援コース総評（案）★

- ・初動期支援コースの2団体は、歴史的な地域資源を活用した地域づくりやミュージックベル演奏等を通じた地域貢献に関する活動により、地域の活性化、地域課題の解決を図る事業であった。
- ・両事業とも協働のまちづくりの理念にかなったものであるとともに、今の時代のニーズを反映したものであったし、何よりも、1年を通じてメンバーの皆さん自身が楽しみながら、活発に活動をされていたことがとても印象的で、初動期支援コースの市民奨励金を有効に活用いただいたと感じているし、今後の活動に対して大きな期待感を持っている。
- ・両団体とも、活動を継続していくことによって、団体自身や活動に対する世間の認知度が高まり、支援者や協力者が増え、活動がより充実したものになると考えているので、団体の皆さんには、今回の経験を土台にし、今後どのようにしていきたいのか方向性を定め、是非、活動を継続していただきたいと思う。
- ・また、活動を継続していく際には、一部のメンバーだけが頑張るのではなく、現在取り組まれているように、多くの協力者を集めたり、他団体との連携を深めたりするなど、ネットワークの構築・拡大にも取り組んで、充実した事業を展開していただくことを期待している。

★まちづくり支援コース総評（案）★

- ・まちづくり支援コースの4団体は、八戸市が有する文化・歴史、地域の里山を活用したまちづくりのほか、子育て支援に関する活動により、市民活動や地域活動の活性化に資する事業であった。
- ・いずれの団体の事業も、当初の事業計画に沿った運営がなされており、成功裏に終わることができたのではないかと感じている。
- ・また、事業を通じて、それぞれの団体が得られた経験や資産、地域等に及ぼした効果は大変貴重なものであると感じている。
- ・特に、八戸歴史研究会は復元絵図、八戸三社大祭歴史等を研修する会 風流会は大正時代の山車、NPO法人はちのへ未来ネットは他団体等とのネットワーク、美保野小学校地域学校連携協議会は地域の里山というように、各団体が事業を通じて有形・無形に関わらず貴重な資産を得られたということがとても印象的で、まちづくり支援コースの市民奨励金を有効に活用いただいたと感じている。
- ・今後は、事業を通じて得られた経験や資産を活用して、活動内容をより充実したものにさせていただくとともに、新たな事業を展開するなど、現状にとどまることなく、地域課題の解決や地域の活性化につなげる視点を持って、活動を継続していただけるものと大いに期待している。

■委員長

- ・では、次に（2）市民提案制度にかかる事業の1件について、評価をしてみたいと思います。総合政策部 政策推進課とサイエンスを語るパブの協働事業である「八戸サイエンス★ナイト」について、事務局より説明をお願いします。

□市民提案制度 事由提案部門

総合政策部 政策推進課、サイエンスを語るパブ / 八戸サイエンス★ナイト

■事務局

- ・評価される点としては、八戸大使や高等教育機関の教授陣から知識を得ることができる学びの場を、カフェというスタイルによって一般市民にも親しみやすい形で開催し、参加者からも良い評価が得られたこと。当初予定していた内容、回数以上にバラエティに富んだ内容で多数開催され、今後も期待ができる活動であったという意見が多くあげられた。また、協働した双方がメリットを感じられたことを評価する意見があげられた。
- ・意見・アドバイスとしては、事業の継続を期待するという意見のほか、幅広い世代が参加できるよう異なる時間帯での開催や広報活動・媒体の工夫に関するアドバイスがあげられた。

■委員長

- ・それでは、総合政策部 政策推進課とサイエンスを語るパブの協働事業である「八戸サイエンス★ナイト」について、ご質問やご意見はありませんか。
- ・サイエンス★ナイトについては、平成26年度で終わりになりますか。

■事務局

- ・今年度も継続する予定ではあるということです。
- ・ただ、平成26年度は市の担当課である政策推進課が協働で開催していましたが、サイエンスを語るパブのメンバーが市内の各大学の先生などで構成されており、今回運営していく上での経験を積むことができたので、実行委員会形式になっているサイエンスを語るパブだけで今後は活動していくというような動きになっているようです。

■委員長

- ・市との協働ではなくて、サイエンスを語るパブだけで自主的に開催していくということですね。そういう方向でもいいかもしれませんね。
- ・今後の活動に対するアドバイスというところで、今お話があった方向で今後も継続されるということであれば、アドバイスのままでいいかもしれませんね。

■委員

- ・活動成果発表会では、誰が発表しますか。

■事務局

- ・政策推進課とサイエンスを語るパブの双方で発表を行うことになります。

■委員長

- ・アドバイスに関しては質問に置き換えさせていただこうかなと思いますが、PRに関することは参加者の確保ができているという意見と参加者が少ないように思うという意見の2つの見方がされていますね。

■委員

- ・当初の計画でも1回あたり20名程度という計画でしたので、少ないということはないのかなと思います。小規模で何回もやるということでしたし。

■委員

- ・顔の見える関係でやっていくということでしたね。

■委員

- ・ただ、いつ開催されているのかがわからなかったという部分はあるかと思います。
- ・そういう意味でのアピールは何か考えてもらえればと思います。

■委員長

- ・その他に記載があります「中心市街地の活性化」ということが、当初の目的に記載がありましたかね。

■事務局

- ・企画提案書においては、「中心市街地の賑わいの一助となす」という記述はあります。中心市街地に人が出てくるきっかけ・動機にしていきたいという感じかと思います。「中心市街地の活性化」というところまで踏み込んだ記述にはなっていません。

■委員長

- ・そういうことであれば、今回の発表の中では触れる必要はないかもしれませんね。1回あたりの参加者が20人程度では、活性化に資するとまでは言えないでしょうね。

■事務局

- ・何度かサイエンス★ナイトには参加しましたが、講師の先生と参加者の皆さんとのやりとりも結構見られました。八戸大使を講師に招いたサイエンス★ナイトも7回のうち1回開催されましたし、全体的に楽しむことができる内容になっていたように思います。

■委員長

- ・実際にサイエンス★ナイトを運営されている方の事情もあるかと思いますが、実際にできる・できないということは別にして、アドバイスとして出されているような「こう

いうことはできませんか。」という意見を出すのはいいとは思いますが。

- ・参加者の多少については今回はなしにしましょう。中心市街地の活性化についても提案書の中に書かれていませんのでなしにしましょう。「一助」という記述になっておりますし。
- ・みなさんから他に確認しておきたいことはありますか。

■委員

- ・20代と学生の参加者については、サイエンスを語るパブの構成員に大学の先生が入っているのもっと多いイメージを持っていたのですが、参加者が少なすぎるので各大学にもっとアピールした方がいいのかなと感じました。

■委員長

- ・当日、意見として言うことがあるかもしれません。

■委員

- ・参加者の年齢層が偏りすぎていますよね。40代から60代の方は、情報をキャッチするのが早いのかなと思ったりもしました。

■委員長

- ・質問としては、アドバイスを抜粋して質問に置き換えさせていただく項目のほか、学生・若い世代に関する質問を出させていただくこととなりますね。
- ・「文学的なパブがあってもおもしろいのではないか。」というのはどうなのでしょう。

■事務局

- ・7回開催されたサイエンス★ナイトでは、韓国の昔話をテーマにしたときやコミュニティアートをテーマにしたときがありました。最初は科学というイメージでしたが、内容は多岐に渡っていたかと思います。

■委員長

- ・サイエンスと言いながらも、こちらの意見については盛り込まれていたということになりますね。

■委員

- ・タイトルで捉えてしまうので、文学的な内容をテーマにしても「サイエンス」という単語によってイメージがつながりません。
- ・いろいろな分野の方を巻き込んでいくのであれば、「サイエンス」という単語を用いないほうがいいのかと思いました。

■委員長

- ・「肩肘張らない会に」という意見も出されていますが、なっていたのではないかと思います。これは発表を聞いた上で、質問するかどうか判断したいと思います。
- ・「夕方以外の時間帯に開催してはどうか」ということについては、意見として出るかもしれません。
- ・あとは、今後も継続されるという方向性みたいなので、「低コストで回数を重ねていくという方法で、今後も継続できるように工夫をしていただきたい。」というアドバイスは私が出したのですが、発表を聞いた上でお話をさせていただくかもしれません。特に事前にお知らせいただく必要はないかと思います。
- ・広報に関してはフェイスブック中心になりますか。

■事務局

- ・ブログは運営されていました。

■委員

- ・市のホームページには掲載されていましたか。

■事務局

- ・はっちのイベント情報には載っていたと思います。
- ・あとは直接聞いたわけではありませんのではっきりしたことは申し上げられませんが、はっち内で開催されるイベントでしたので、BeFMでも放送されたのではないかと思います。

■委員

- ・アンケートの結果をみると、企画を知ったきっかけは「知人から」という回答が多いですね。

■委員長

- ・今年度企画提案があった「南部の人」プロジェクト実行委員会ではないですが、はっちの中で開催されているイベントはどこまで細かくホームページに掲載されていますか。

■事務局

- ・サイエンス★ナイトについては、イベントスケジュールには掲載されていました。ただ、はっち自体のイベントではないので、トップページに掲載ということはなかったかもしれません。

■委員長

- ・話が少しそれます。はっちが八戸の中でどんな施設を目指しているかということになりますが、おもしろい企画がやってないかと検索される施設だといいと思っています。
- ・たまたま検索されて「はっちに辿りついた。」というのではなくて、「はっちだったら、何かおもしろいことをやっついそうだね。」と検索される施設であれば、サイエンス★ナイトのようなイベントもその中でPRされるべきだと思います。常におもしろいことをやっている場所ということ。
- ・そのようなことから、はっちのホームページの中で、サイエンス★ナイトがどのように扱われていたかという部分は気になるころではあります。
- ・個人的には、フェイスブックでの広報というのは実際難しいというイメージを持っています。自分自身、フェイスブックを見なくなっているということもありますので。

■委員

- ・はっちの館内でイベントスケジュールは掲示されていますか。

■事務局

- ・当日のイベント情報については掲示されています。

■委員

- ・当日だけではなく、1週間のイベントスケジュールが館内でもわかればいいのかと思います。

■事務局

- ・関連するチラシなどは常に置いていると思います。

■委員

- ・チラシだと手に取らなければいけませんよね。そうではなくて、掲示板のような形でパッと目に入ってくる方がいいかと思います。

■委員長

- ・「何かおもしろいことをやっているかもね。」と普段からアクセスする場所にするためには、ホームページに掲載されている情報が大事になってくるので。この団体に対する意見ではありませんがね。
- ・回数自体は予定より非常に増えて、内容もバラエティに富んでよく活動されたという印象を報告書からは持っています。人数が少ない中でやる企画もありだと気づかされまし

た。報告書を見たら、私も聞きたい話がありましたね。

- ・審査の時には、そこまでやれるかなという印象でした。誰が来て、何をやるかという具体的な内容が決まっていなかった時点での審査でしたので、少し不安を感じていたのが正直なところでしたが、きちんと実行されたなと思っております。
- ・総評案ですが、当初の計画より開催回数も大幅に増やされて、活動とすれば十分されたという印象ですということになります。
- ・今日の意見交換も踏まえて、事務局には総評案の作成をお願いしたいと思います。
- ・ほかに委員の皆さんからご質問がなければ、成果発表会に向けての委員会は終わりになりますので、今日の案件はこれで終了させていただきます。

★市民提案制度による協働事業の総評（案）★

- ・市民活動団体と行政とが共に情報共有を図りながら、互いの役割分担のもとに連携して事業を進めることができたことで、双方が協働によるメリットを感じて実施することができた事業である。
- ・一般的に「難しい」というイメージで捉えがちな「科学」というテーマを、研修会とも公開講座とも違う「カフェ」という緩やかなスタイルで取り上げたことによって、市民にも親しみやすい、市民目線の学びの場にできたとともに、講師であるサイエンティストと参加者、さらには参加者同士が交流する場にできたことは、生涯学習の機会の充実にもつながっていくものと思われる。
- ・また、当初の計画より開催回数も大幅に増え、テーマも理系的な内容に限定しないバラエティに富んだ内容で開催されており、参加者からも好意的な意見が寄せられていることから、「市民への多様な学習機会の提供」という当初の目的を達成するために有効な事業であったと感じている。
- ・何より、サイエンス・パブという事業は八戸市内では初めての試みであったことから、カフェというスタイルや小規模での開催によって、講師を含めた参加者同士がコミュニケーションを容易にとることができるという点など、このような学びの場もあるのかと我々自身が気づかされた事業であった。
- ・全体を通じて見ると、幅広い参加者を得られていた一方で、学生を含めた若い世代の参加が少なかったのが残念であった。サイエンスを語るパブは、市内高等教育機関の先生方がメンバーになっておられるので、学生の皆さんにアピールしていただければと思う。
- ・また、課題としても挙げられていたが、1年目の事業ということもあり、このような取組を知らない市民は多いと思うので、広報活動に工夫を加えていただければと思う。
- ・委員会としても事業の継続を期待しているが、参加者からも事業の継続を希望する声があるようなので、今回の協働事業で得られた経験を活かし、市民一人ひとりが持つ八戸への愛着や誇りがさらに強まるよう、より充実した事業を展開していただくことを期待している。

次第4. その他

■事務局

～今後のスケジュールの確認と委員会開催予定日の日程調整～

5. 閉 会